

平成 29 年度学群編入学試験  
生命環境学群地球学類

学 力 検 査  
(専門科目)  
問 題 冊 子

注意事項

- ① 問題 I ～IVの全問題について解答すること。
- ② 解答用紙は各問題に対して1枚使用し、横罫線用紙を問題 I からⅢに、マス目・罫線の無い用紙を問題IVに用いること。それぞれの解答用紙の横長の箱内に「問題 I」のように問題番号を明記すること。
- ③ 解答が書ききれない場合には、「裏へ」と明記して、その解答用紙の裏面に続けて書くこと。
- ④ 試験時間は 120 分です。

問題Ⅰ 古生代と中生代の境界はP-T境界と呼ばれ、顕生代最大の生物大量絶滅が起こったとされている。この絶滅に至った経緯について、プレートテクトニクスと絡めながら説明せよ。

問題Ⅱ 日本列島に産する(A)美濃帯のチャート、(B)三波川帯の緑色片岩、(C)領家帯の花崗岩のそれぞれについて、形成過程、形成時代、形成場を説明せよ。

問題Ⅲ 人類と地球環境に関する以下の問いに答えよ。

(1) 人類は、生存あるいは快適な生活環境を実現するため、どのようにして自然環境を改変してきたのか、以下の語句を全て用いて説明せよ。なお、解答中語句を用いた箇所には下線を付すること。

[ 森林 農地 地形 都市 ]

(2) 持続可能な地球環境をどのように構築したらよいか、自分の意見を述べよ。

問題Ⅳ 地球規模の水循環を把握するために、任意の領域に出入りする水の量の差引勘定(水収支)を計算する方法がある。大陸上を想定した時、“大気中”と“陸面”で水収支を計算するときに必要な要素(現象)を、図を用いて説明せよ。さらにその要素の中で、水の相変化による熱のやり取りを伴うものをあげ、どのような時に熱が放出(または吸収)されるかを具体的な現象で説明せよ。